（別紙４－１）

企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】（ユニット１）

事業所番号	0191000132		
法人名	株式会社　健康会		
事業所名	グループホーム　若葉　（ユニットA）		
所在地	江別市野幌若葉町８６番地１		
自己評価作成日	平成29年2月24日	評価結果市町村受理日	平成29年4月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000132-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所　介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成29年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅と田園風景が広がる中に佇んでいるホームです。周辺に小学校や大学があり、不定期ではありますが、子供たちとの交流も行われています。暖かい時期にはできるだけ外出の機会を設け、散歩や外出レク等で楽しい時が過ごせるよう努めています。日常生活での掃除や調理などを通して自立支援につながるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、江別市野幌の西方向で、閑静な住宅地に位置し、2階建て2ユニットのグループホームである。法人は、医療法人を母体として、認知症高齢者グループホームを始め訪問介護、通所介護、訪問看護、居宅介護支援、医療系老人ホームなどを旭川市を中心に道内や首都圏で運営しており、積極的に高齢者介護の支援を行っている。母体が医療法人な為、24時間の医療支援体制が構築されており、重度化や終末期にも積極的にチームで対応している。事業所内は広く、ゆったりしており、利用者は居間のソファで寛いでいることが多い。小学生の来訪やボランティアによるコーラス合唱やオカリナ演奏などの交流もあり、利用者の楽しみな恒例行事となっている。職員は、事業所の理念の「利用者が楽しく穏やかに生活できるよう支援に努めます」に基づき、笑顔で明るく一人ひとりに寄り添ったケアに努めているグループホームであり、これからも期待したい。

Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる（参考項目：23、24、25）	○	1　ほぼ全ての利用者の
			2　利用者の2/3くらいの
			3　利用者の1/3くらいの
			4　ほとんどつかんでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18、38）	○	1　毎日ある
			2　数日に1回程度ある
			3　たまにある
			4　ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36、37）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
		○	3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30、31）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9、10、19）		1　ほぼ全ての家族と
		○	2　家族の2/3くらいと
			3　家族の1/3くらいと
			4　ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2、20）		1　ほぼ毎日のように
		○	2　数日に1回程度
			3　たまに
			4　ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1　大いに増えている
			2　少しずつ増えている
		○	3　あまり増えていない
			4　全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11、12）		1　ほぼ全ての職員が
		○	2　職員の2/3くらいが
			3　職員の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての家族等が
		○	2　家族等の2/3くらいが
			3　家族等の1/3くらいが
			4　ほとんどできていない

（別紙４－１）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所内に掲示し、常に職員の目に入るようにし共有している。またユニット会議では読み上げ確認している。	法人と事業所の理念を掲示し、常に意識して日々のケアに努めている。また、月１回の会議で読み上げることによって確認し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加していただいたり、地域の小学校の特別支援学級との定期的な交流がある。	コーラスや演奏のボランティア、小学生の訪問がある。近隣の方には、行事のチラシを作って参加を呼び掛けている。また、雪かきなど日常のかかわりを大切にしている。	小学生やボランティアの来訪はあるが、事業所主催の行事に地域の方の参加を促すなど相互の交流となるような工夫を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内のグループホームと合同で市民向けの認知症に関する講演会を毎年実施しており、運営推進会議の場等で情報提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族や民生委員、地域包括支援センター職員等の参加により2ヶ月に1回開催しており、会議の場でご意見をいただき、サービス向上に活かせられるように努めている。	会議には民生委員、包括職員、家族の参加があり、2ヶ月に1回のペースで行われていて、事業所からは活動報告、事故や委員会活動の報告もされている。また、参加者からの質問、意見、要望を受け、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入居状況の報告や、事故報告や運営推進会議の議事録提出を随時行っている。	日頃から連絡を取り、包括職員には運営推進会議の際に、事業所の取り組みを伝えている。市が主催する認知症サポーター養成講座の参加の呼びかけを行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上玄関の施錠をしているが、日中は入居者様や外部の方が自由に出入りできるよう開錠している。	身体拘束をしない指針とマニュアルを整備して、職員を研修に参加させ、拘束をしないケアの実践に取り組んでる。家族とも検討して話し合いをしながら、抑圧感のない暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の研修の参加や勉強会等を通して虐待について学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している入居者様はいないが、研修会等に参加し制度を理解する機会をもうけていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や不明な点があるときはいつでも問い合わせしていただけるよう説明している。また家族様からの苦情には、面談を実施しこれからの対応の説明をさせていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、重要説明事項説明書にて苦情受付窓口の説明や、運営推進会議時にご意見をお聞きするなどしている。	担当者が毎月利用者の様子を手紙で家族に送付したり、運営推進会議の会議録も写真付きで定期的に報告している。事業所には意見箱を設置し、家族が訪問した際には常に問いかけ、要望をくみ取り、思いを運営に反映するようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回のユニット会議での意見交換や、日々の業務内でも意見を聞く機会を設けている。	ユニット会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設けて話し合っている。法人内に接遇・安全・感染症対策の各委員会があり、各事業所の職員が参加し月１回事例検討をしている。また、半年に1回、個人面談を行って、運営に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得状況や勤務年数に応じて昇給や資格手当の支給が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加促しや、定期的な職員評価を行い職員の力量を把握している。新入職員に対しては指導者をつけスキルアップができるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	月１回、市内のグループホームの集まりを通して情報交換やネットワークづくりを行っている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に御本人の自宅や入院先等を訪れ、できるだけ御本人のご希望を聞くようにし、ホームでの生活に対する不安を取り除けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族様の困っていることや不安なこと、要望等をお聞きし、良い関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談やアセスメントを通し、必要なニーズを把握できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができることは積極的にしていただき、困難な部分は職員がサポートすることで、共に生活を作り上げる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の情報提供を行い、ご意見をいただきながら、入居者様のホームでの生活を共に支える関係を築いている。御家族様に協力いただける部分はお願いしケアプランにも記載している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人からの電話や手紙の取り次ぎや、面会時に落ち着いて話すことが出来るよう居室へ案内する等心がけている。	来訪者は多く、気軽に訪ねてくれる雰囲気作りに努めている。家族と美容室や墓参りに行く人もいる。電話や手紙のやりとりを支援して、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を日々観察し、良い関係性が築けるよう努めている。また、職員が入居者様の間に入ることで孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても、その後の相談に応じることができる旨を説明している。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を理解し、本人の希望にあった生活ができるよう支援している。	担当者が、日々のかかわりの中で思いや意向の把握に努め職員で共有している。困難な場合には、家族に相談して、本人本位の生活が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談やセンター方式シートにより生活歴を把握し、ホームでも安心して生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の行動や言動を介護記録に記録することで状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様に都度ご意見をいただいたり、担当職員によるモニタリング、ユニット会議等で意見を出しあい、介護計画に反映させている。状況に変化があれば都度見直しを行っている。	本人・家族の意向を確認して、会議を行い検討し担当職員と計画作成者によるその人に見合った介護計画を作成している。必要に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記載し、気になる点は申し送りを行うことで情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊、面会等特に制限は設けておらず、その時々に応じ柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力のもと年2回避難訓練を実施している。また、入居者様が以前住んでいた近隣の方や民生委員の協力を得ながら外出支援等を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人や御家族様の希望を伺い、入居前のかかりつけ医を継続する場合は、受診前に御本人の情報を同行する御家族等に提供している。	個々の病状に合わせた医療機関を受診できるように支援して、家族とは情報を共有している。また、月2回、協力医の訪問診療があり、24時間体制の医療支援である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により毎週看護師の訪問があり、普段の様子や状態を伝え適切な指示を受けている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子や状態を入院先へ随時お伝えしている。また提携医療機関とは常に情報交換を行ない、職員間でも情報共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時にリビングウィルを取り交わし、御本人や御家族の要望にお答えできるよう努めている。職員間でも都度話し合いや、対応等について検討している。	入居時に説明して要望も聞くようにしている。重度化した場合には、再度話し合い、方針を決めている。看取りについては、家族と同意書を交わして医療機関の協力のもと、チームで連携し体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜想定での避難訓練を実施しており、消防隊員からアドバイスをいただいており、運営推進会議等を通し地域住民の協力を得られるよう依頼している。	利用者とともに年2回避難訓練を行っている。消防研修に参加したり消火器の使い方の確認や避難場所の確保、備蓄やカセットコンロなどの備品は整備している。	年2回定期的に避難訓練を実施しているが、地域の方や家族の参加協力が見られないので、運営推進会議を通じて、地域の方や家族の参加しやすい工夫の検討を期待したい。
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員を設け、接遇に関することを各事業所間でも話し合い、また接遇に関する勉強会に参加する等し、入居者様の誇りやプライバシーを損ねないような言葉づかいや対応を心がけている。	月に1度の接遇委員会で話し合ったり、日頃から一人ひとりの尊厳を大切にしたサービスの実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で御本人からの希望や要望がないかお聞きしたり、小さなことでも選択肢を設けることで、自己決定の機会が増えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日々の日課やレクリエーションを行う際は、入居者様に意向を確認してから行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の希望に沿った服装ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事内容については、日々の会話の中で何が食べたいかお聞きし、メニューに取り込んでいる。食材切り等の下準備や盛り付け、食器拭き等の調理に関することを入居者様と一緒にできるよう取り組んでいる。	利用者の要望や、季節の物を取り入れてメニューを決めている。時には外食をすることもあるが、普段は、利用者と共に配膳や後片付けなどを行い、職員も同じ食卓に着き、会話を楽しみながら食事が出来るよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分摂取量は毎日記録し把握している。咀嚼力や飲み込み状態に応じ、形態を変える等して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、ご自身での口腔ケアが困難な入居者様には職員が介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録に個々の排泄状況を記録し、間隔をみながらトイレでの排泄ができるよう声掛けを行っている。	生活シートの日々の記録から、個々の排泄パターンを把握して声かけ、誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳提供や食事で野菜等の繊維質の物を多く摂取できるよう努めている。また、排便状況を把握し下剤の使用が最小限ですむよう医師と相談しながら調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	基本的には入浴の曜日は決まっているが、入居者様の希望に応じ、曜日や時間を変更し臨機応変に対応している。	週2回の入浴となっているが、希望があればいつでも入浴できるよう対応している。入浴を楽しみ、清潔を保つよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態や希望に応じて日中休息時間を設けている。また、夜間良眠できるよう日中活動にお誘いする等している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たに処方された薬の情報に関しては職員にその都度伝えている。また個人ファイルに薬情報をファイリングしており、常に職員が薬の副作用等が確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人や御家族から生活歴や趣味の情報を引き出し、対応できるよう努めている。また、日常生活の中で役割を持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクを通して普段行きにくい場所へでかけられるよう取り組んでいる。自宅や美容院等の外出はご家族様の協力を得ながら実施している。	日常的には散歩の声がけをして、出来る限り戸外へ出かけられるよう支援している。外出レクでは花見や紅葉狩り、ショッピングセンターへの買い物やとんでんファームで動物とふれあう行事などを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭管理ができる入居者様については、高額でなければ特に制限を設けてはおらず、金銭を持つことで御本人が安心できる状況を作れるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を通しての交流にも制限は設けていない。希望があれば手紙を出したり電話をかけることができるよう都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけや張り絵、日常の様子を振り返られるよう写真を飾るなどして居心地良い空間作りに努めている。	共用空間は、採光や風通しもよく、居間・食堂が広く、食卓テーブルのほかに大きなソファがありくつろぎのスペースになっていて、居心地よく落ち着いて生活できるようになっている。廊下には手作りの作品や写真がたくさん貼られていて、明るい雰囲気になるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの他、くつろげるスペースとしてソファーを用意しており、それぞれが好きな場所で過ごすことができるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人のお気に入りの物、使い慣れた物を持ち込み可能であることを伝えており、できるだけ安心して生活できる環境づくりに努めている。	居室は、収納ロッカーやベットも設置されており、整理整頓され清潔である。使い慣れた家具や思い出の小物類や写真などを持参し、安心の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にはご自分の部屋とわかるよう表札を付け、トイレや風呂場もわかりやすいよう表示している。		